名古屋市教育委員会定例会

令和５年６月９日
午後３時00分
教育委員会室

議　事
日程１　教職員の処分について（第５号議案）
日程２　令和５年度一般会計補正予算について
日程３　第４期名古屋市教育振興基本計画について（協議題第３号）

出席者
坪　田　知　広　教育長
西　淵　茂　男　委　員
鎌　田　敏　行　委　員
中　谷　素　之　委　員
山　本　久　美　委　員
教育次長始め、事務局員16名　※傍聴者１名

（坪田教育長）
それでは、ただ今から教育委員会定例会を開催いたします。
はじめに、議事運営についてお諮りいたします。
日程第１、第５号議案「教職員の処分について」につきましては、名古屋市教育委員会会議規則第６条第１項第１号「職員の人事に関すること」に該当するため、日程第２、「令和５年度一般会計補正予算について」につきましては、規則同項第３号「議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関すること」に該当するため、非公開にて審議したいと思います。この場合、傍聴人に配慮し、日程第３、協議題第３号「第４期名古屋市教育振興基本計画について」を先に議題とさせていただき、日程第３、日程第１、日程第２の順で進めさせていただきたいと思います。
また、会議録につきましても、日程第１については非公開、日程第２については議会に上程するまでは非公開としたいと思いますが、いかがでしょうか。

（各委員）
異議なし。

（坪田教育長）

ご異議なしと認めそのように取り扱わせていただきます。

ではこれより、日程第３、協議題第３号「第４期名古屋市教育振興基本計画について」を議題といたしますので、事務局の説明をお願いします。

（東海林企画経理課長）

現在策定を進めております、第４期名古屋市教育振興基本計画につきまして、昨年度の３月の教育委員会協議題として、基本的方向のイメージについてご意見をいただいたところでございます。本日は、基本的方向やそれに紐づく施策体系につきまして、事務局の案をお示しし、教育委員の皆様からご意見を賜りたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

本日提出をしております資料は、５月26日に開催いたしました、「第２回有識者会議」に提出した資料と同じ内容となっております。

資料の１ページをご覧ください。右肩に資料１となってございます。

３月に計画における基本的方向に関するキーワードをもとに、教育委員の皆さまからいただいたご意見を踏まえまして、事務局において検討を進めまして、右側５つの基本的方向としてまとめさせていただいたところでございます。

２ページをご覧ください。右肩、資料２－１でございます。

左上の「位置づけ」でございますけども、この計画の位置づけにつきましては、本市における最上位の行政計画である総合計画や、市長が定める教育大綱であります「ナゴヤ子ども応援大綱」と相互に関係・連携した、本市における教育の振興のための施策に関する基本的な計画となってございます。

その下をご覧いただきまして、計画の策定にあたりましては、市の総合計画や、ナゴヤ子ども応援大綱、本市の教育を取り巻く環境や、国の次期教育振興基本計画におけるこれらのさまざまな要素を反映していく必要があるものと考えております。

こうしたことを踏まえまして、先ほどの資料でもご説明しましたとおり、右側に記載しております、５つの基本的方向として取りまとめたところでございます。

この５つの基本的方向の関連性につきましては、２ページの左上の「位置づけ」にありますように、本市が目指す、学びの基本的な考え方である「ナゴヤ学びのコンパス」を計画の中心、コアに据えまして、そこに５つの基本的方向を構成することで、５つの方向が相互に連動・連携し合う、すべてが繋がった形として表現しております。

「ナゴヤ学びのコンパス」は、本市が教育を通じて目指したい姿を描いたもので、重視したい学びの姿を通じて、目指したい子どもの姿、そして、その子どもたちが大人になっていくことで実現したい市民の姿について示しております。この考え方は、計画の全体に通じるものであることから、今回、計画のコアとして位置づけることとし、この部分を中心として、５つの基本的方向がつながり、そのもとに施策や事業が展開されていく構造を考えているところでございます。

３ページをご覧ください。資料２－２でございます。

先ほどご覧いただきました、５つの基本的方向に紐づく施策の体系として、ご覧の通り

整理を進めているところでございます。
５つの基本的方向のうち、最も大きなものが、基本的方向Ⅰであると考えておりまして、真ん中に大きな楕円でお示しをしております。その周囲に、基本的方向ⅡからⅤまでを配置しまして、Ⅰを補完するような形で全体を示しております。
また、各基本的方向の中の〇数字で示している部分が施策でございます。
施策の⑦「子どもや親を総合的に支援し、子どもの針路を応援します」と⑧「いじめの防止対策や不登校児童生徒への支援を推進します」この２つのものにつきましては、基本的方向のⅠとⅡの双方におきまして、関連の強い施策であることから、ⅠとⅡの両方にまたがるように表現いたしております。
なお、計画全体では20の施策を想定しているところでございます。
また、４ページをお開きいただきますと、資料３として「ナゴヤ学びのコンパス」中間案の資料を参考として付させていただいております。
甚だ簡単ではございますが、資料の説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

（坪田教育長）
説明が終わりましたので、ご質問、ご意見、ご提案をよろしくお願いします。

（西淵委員）
有識者の方が学びのコンパスっていう指針を示してくださっているということで、内容的には非常に参考にすることが多いということで、今後出来てくるということでそういう話なんですけども、これは５ページを見ると、下の方に「どの学校園でも大人が大切にしたいこと」となっているんですけれども、学びの対象が学校教育に限られるのか、もう少し広い範囲を想定しているのかってこと。これだとちょっと何か、どの学校や幼稚園でもというように読み取れるんですけれども、その辺はいかがなんでしょうか。

（平松新しい学校づくり推進室長）
今ご質問いただきました、この学びのコンパスの対象というところでございます。まずもって学びのコンパスは学齢期における学びの方針ということを主眼に置いて、学校教育の中での学びの方向性ということを示させていただいたところでございました。ただですね、この学びを支えていく考え方というのが、教育委員会が所管する生涯学習を含めた、すべての学びにおいて、共通で掲げることができる価値というふうにとらえていただき、今回教育振興基本計画の中心ということに据えていただいたというところもございます。
そういう意味では、今西淵委員おっしゃっていただいた、「どの学校園でも大人が大切にしたいこと」というふうに捉える部分、ここだけを捉えますと、学校教育のことだけという受け止めもあろうかと思いますけども、全体として、今回、教育の中で重視したい学びの姿や、目指したい子どもの姿、こういったところを広く捉えて、計画の位置づけとい

うふうになっております。

（西淵委員）
　はい。ありがとうございました。理解はしました。
　大人っていうのはどうも、教職員が大切にしたいことというのは分かるんですけども。地域の保護者とかも、さっき言ったように生涯学習も含めて考えるのであれば、「学校や園でも」というのは今おっしゃったことが十分に反映されていないんじゃないかなということを一つ思うんで、機会があったらまたご検討いただきたいと思います。
　それから、これは意見ですけれども、この名古屋市教育振興基本計画の中核に学びのコンパス等が続いてきて、どんな学びをしていったらいいかと、それについて大人がどのように教育支援をしていったらいいかということであれば、この骨子の図の中に、学びのコンパスという言葉を入れないといけないんじゃないかなと思うんですが、その辺はまた今後検討いただけるのか、またちょっと、実際入っているというふうに言うのか、何かあれば教えてください。

（東海林企画経理課長）
　骨子の見せ方は、いわゆるダイジェストの部分になるかと思いますけど、この見せ方につきましては、有識者会議でもいろいろご意見をいただいておりまして、先ほど、ご指摘をいただきましたように、やはり学びのコンパスっていうものが、考え方の中心にある、コアにあるということを図やイラストのような形で分かりやすくお示しできるように考えていきたいと思っております。

（西淵委員）
　またよろしくお願いいたします。

（鎌田委員）
　多分これどこの自治体が作っても、同じような内容になると思うんです。名古屋市の場合は、河村市長が「一人も死なせないナゴヤ」ということを強調しておられますので、教育委員会としてそうだというふうに、賛同しているという立場なのであれば、ここに何かしらの対策を組み込んではいかがなのか。いやあれは市長が言っただけだという立場であれば、そういうふうに取り扱えばいいんですけども。
　教育を振興するにしても何にしても、子どもが生きていなくてはいけない訳ですから。その子どもがいじめがあったり何かして、命を落とすようなことがあるとすれば、それは何としても避けなければいけません。１ページ目に書いてありますが、単に「いじめ防止対策の強化」というだけではなくてですね、それはみんなそうですよねと、とうだけのこ

となのかなという感じがしてしまうんですが、いかがなものでしょうか。

（東海林企画経理課長）
　応援大綱の一番根本にあるこの「一人の子どもも死なせないマチ ナゴヤ」その考え方そのものについては、やはり応援大綱と、教育振興基本計画は密接に連携をしておりますので、その考え方については、反映していくのであろうかなというふうに思っております。ただそれが、教育振興基本計画、計画という形になりますと、施策体系ですとか施策、そういった形で細分化というとちょっとあれですけども、その中で趣旨を盛り込んでいくような形で考えておりますので、この文言がそのまま、計画の中に書かれるっていう形では現在整理をしておりません。

（坪田教育長）
　書いてもいいんだよね。
　総論っていうことで今、文章を増やしていって、書いていって、それに引っかかるのはいじめ対策であり、不登校支援であり、あと応援委員会のことであり、キャリア教育もそれに紐づいていくということは表す訳ですよね。

（東海林企画経理課長）
　おっしゃる通りでございます。

（坪田教育長）
　ということなので、そこは、そういう趣旨で名古屋ならではのことが分かるように、今後肉付けがされていくんだと思います。

（鎌田委員）
　今でも学校の職員室は職員室という名前が付いているらしいんですけども、そこをですね、「一人も死なせない委員会室」とかいうふうに名前を変えるとかですね、名古屋市のみでは。とにかくそれくらい我々一生懸命やっているんですと、そういう気持ちを教職員がみんな持つと、子どもたちにもそういうふうに先生たちみんな考えているんですよと、アピールするとかですね。何か動かないと、ここに書いてあることは美しいんですけども、そういうふうに私は思いました。

（坪田教育長）
　名古屋市の軸として一本通っているというのがそこだと思いますので、分かるようにしていくと。

（中谷委員）

ありがとうございます。凄くグラフィカルで構造が見えやすくキーワードが分かりやすく紐づいているもので、今まで何度か見せていただいたものより、やっぱりぐっとこう完成度が高まったというふうに拝見しました。

その上でなんですけれども、大阪市と横浜市の教育振興基本計画はどんなものかなあと思って見ていまして、やっぱり今鎌田委員がおっしゃられたように、教育にとっていいことが書かれているという感じで、横浜市なんかすごくグラフィカルに書かれていて、エビデンスベースっていうのを明示されていて、おそらく市民の方が魅力的に見えるだろうなという感じがしまして、大阪の場合は大阪府になるんですかね、高校教育の無償化がすごく注目されていて、目立つような、政策にも繋がるようなお話なのかなと。図を見せるのかなというふうに思います。

そこでちょっと確認したいと思いましたのは、最重要であるこのＩの領域の中にある「すべての子供たちの可能性を引き出し、社会で活躍できる力を育成します」ということなんですが、これは大事なことだと思うんですけど、キーワードみたいなことで言うと、一言で言うと、どんなものになるんでしょうかという質問です。もうちょっと言うと多様性になるのか、それとも主体性になるのか、大きく言うとその軸になるんだろうと思いますけども、どうですか。

（東海林企画経理課長）

これについては、そういう意味では、どちらも含んでいるというのが、正しい答えかどうかわかりませんが、どちらも含んでいると私は理解しております。主体性についても多様性についても、やはりそれぞれの主体性があるということと、多様性があるということは、相反することではなくて、どちらもそれがないと、お互いが達成できないというか、主体性を確立するために多様性を認めていくことも必要でしょうし、そういう関係性があるので、切っては切り離せないというふうに理解しておりました。

（中谷委員）

回答としては若干了解しかねるかなと。自分なりの考え、というか私は専門が一応こういう領域に近いので、そういう観点からもですね、いわゆるラーニングコンパスですね、一時期のOECDの時の議論が20年ぐらい前から始められていて、その中で、どんな次元がディメンションが大事なのかっていう議論がなされてきているわけで、2030っていう目標がある通り、2030年に達成すべき資質と位置付けられている訳ですね。そういった時に、可能性を伸ばすっていうのは大事ですけど、何なのかっていうことに必ずなるわけで、市の教育行政としてもこの第４期で何を成果として出すのかってことになるんだろうと思いま

す。なので多様性であれば例えば、特別なニーズやギフテッドと言われるような多様な子どもたちの才能を学校で引き受けるとか、そういう子たちの学校的評価が高まるとかそういうことになるでしょうし、主体性となると学力なのか、それとも学力のばらつきがなくなることなのか、或いは地域による学力のばらつきがやや小さくなるとかですね。いろいろ捉え方あると思うんですけど、そのOECDのラーニングコンパスの中の一番の軸はおそらく、それでその人はいいと思うんですけども、エージェンシーというやつですね。生徒のエージェンシーという考え方で、エージェンシーというのは自分がその中に関わっているという感覚という話で、いろいろネットにも情報は出ておりますけども、生徒のエージェンシーというのが重要なので、私の理解では名古屋市も主体的な学びということが中心なのではないか、その主体性をいろんな子どもたちに担保するという意味で多様性になっているのではないかというふうに思いまして、なので皆さん、もう汗をかいておられるところで、十分肌感としてはご理解いただいていると思うんですけども、主になるのは主体性ではないでしょうか。

（坪田教育長）
　この辺を中谷委員のご協力も得て深めさせていただくことが必要かと感じました。

（中谷委員）
　ラーニングを明確にという両委員の意見と共通すると思うんです。

（坪田教育長）
　おっしゃる通りです。みんなが分かるようにしてものにしないといけないということとのバランスを感じました。一般の保護者も分かるレベルのものを作っていくということで、定義付けが難しすぎるとどうなのかなということを感じましたので、今学びのコンパスを練っているところなので、そことの親和性もありますけどね。
　大事なのは名古屋ならではの名古屋らしいものを作りたいというのは我々も思いがあるので、ということと先に行きたい、OECDが飛び出るにせよ、我が国で一番最初に自治体から近づいたものを作りたいという意気込みはある訳です。ということと現実とか現場のニーズとかとのバランスを考えて練っていくかなと思いますので、学びのコンパスなどももう一度勉強した上でですね、どういうものか、方向性を分かりやすく一言で言うならば。一言で言わなくても良いかもしれませんが。誤解が無いようにしなくてはいけないのは間違いがないですし、若干ちょっと矛盾したことも織り込んでいかないといけないこともどうしてもこういう計画はあるかなと思っております。今も子どもたちに意見を聞いたり、いろいろな所に意見聞いていきますので、現実の子どものニーズみたいなものを上手く入れられたらいいかなと。上滑った理論になってもいけないのかなと悩んでいるところです

から、個別にまた研究分野も含めて教えていただけるといいのかなと。

（中谷委員）
　別に反論するものではないですけども、文科省とかでも、かなりやっぱりそこの何というか、噛み砕く作業というのはOECDのシリーズとかセミナーとか開かれたりとか、文科省とか慶応におられた鈴木先生とかがよく関わっておられますよね。翻訳するというか繋ぐ作業って結構それだけで大変なことだと思うので、今教育長がおっしゃるように、矛盾もはらんで、メッセージを出さないといない。でも可視化されないと結局何を言ってるのかってことになってしまうと思うんです。なので何を目指すんだっていうことが皆が同意できる旗でないといけないので、可能性をということで皆さんの心に残るか頭に残るかということだと。

（坪田教育長）
　多分、キャッチフレーズを揉むことと、ぶら下がっていく施策をちゃんと練っていかないと、このフレーズでこんな施策かよということになっちゃいけないんで。ポイントは不登校支援とか福祉との連携とか、あるいはいじめもそうですけども。特別支援教育ですね。特別支援教育もよりインクルーシブになるべきだというご意見も有識者からいただいたりするので、あと外国人にルーツのある子どもたちとの共生、これは大人も含めてか。名古屋は進んでいる訳ですから、夜間中学とか我々も色々考えている訳ですけれども、その辺の具体的な施策とのバックをして全体のタイトル付けをする。その行ったり来たりをしてやっていかないと上滑ってしまうと思うんで、その作業は今後進んでいくという中で最後ちょっとコンセプトをまとめるということを意識しながらですけども。まだこれたたき台ですから、逆に色々なアイデアを入れていきたいと思いますので、中谷先生の研究の知見をお与えいただくことも含めてご協力を個別にお願いしたいと思います。

（中谷委員）
　私の現時点で拝見した意見ですけれども、また色々教えていただければと思います。

（坪田教育長）
　お気づきの時に、この会議対応時だけじゃなくて、言っていただければ、随時取り込みつつ、それを発展さしていきたいということでよろしくお願いします。

　日程第１及び第２は非公開とされたため、名古屋市教育委員会会議規則第12条の規定により、会議録は別途作成。

午後３時42分終了